

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年5月28日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2009～2012

課題番号：21243013

研究課題名（和文） 北東アジアの冷戦：新しい資料と展望

研究課題名（英文） Northeast Asia in the Cold War: New Materials and Perspectives

研究代表者

ディビッド ウルフ (DAVID WOLFF)

北海道大学・スラブ研究センター・教授

研究者番号：60435948

研究成果の概要（和文）：

本研究では、歴史家と政治学者の連携のもと、冷戦期の北東アジア、特に日本側の役割と視点にたった多くの資料を収集・統合した。この4年の研究期間で研究メンバーは、ワークショップ、カンファレンスや様々な国際イベントにおいて、新たな資料と結論に基づく80回もの発表（半数が英語発表）を行い、約70もの論文・図書を執筆・刊行した。

研究成果の概要（英文）：

This Kaken has combined historians and political scientists to collect documents in and about Northeast Asia in the Cold War, especially Japan's role and perspective. At workshops, conferences and international events, our members have made 80 presentations of new materials and conclusions during the last five years, more than half in English. The members made 70 publications during this period and many more will follow.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	9,300,000	2,790,000	12,090,000
2010年度	8,300,000	2,490,000	10,790,000
2011年度	8,400,000	2,520,000	10,920,000
2012年度	8,600,000	2,580,000	11,180,000
総計	34,600,000	10,380,000	44,980,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学・国際関係論

キーワード：外交史・国際関係史・アジア冷戦史

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、1990年度中葉から、ウッドロウ・ウィルソン・センターで冷戦史プロジェクト (Cold War International History Project: CWIHP) を10年あまり組織し、米国・ロシア・東欧・中国・日本・韓国などにおける資料発掘（資料集編纂）とその多面的分析、国際シンポジウムのコーディネートを努めてきた。

プロジェクトを通じて、ソ連解体直後の集中的な資料収集（ロシア現代史文書館 RGANI など）、ソ連の対東欧ならびに、（共産圏を中心とした）対アジア諸国に対する外交研究の分析が進められ、更には華東師範大学の中国冷戦史研究との連携を通じて、中ソ関係の研究は飛躍的な発展を続けてきた。中ソに関わる冷戦史の国際的研究は、CWIHPに担われ、研究代表者はその中心的存在であった。

研究代表者が、このプロジェクトを指揮して長年痛感してきたのが、日本におけるアーカイブの非公開と国際的な冷戦史研究へのコミットメント不足である。日本の外交関連資料の機微に関わるものがなかなか公開されないことはよく知られているが、同時に日本の冷戦史研究は国際的なプロジェクトにおいて存在感が乏しい。日本でも日米外交史研究者を中心に、アジアに関する冷戦研究プロジェクトが生まれ、一定の成果を上げていることは承知しているが、米国の研究者の個別的な招請、あるいは英語を使って仕事をしている中国やロシアの研究者とのアドホックな交流に留まっており（つまり、中国語やロシア語の一次資料をもとに研究体制を組織できていない）、残念ながら国際的には認知されていない。

2. 研究の目的

上記の背景を踏まえ、日本における冷戦史研究を支援・発展させ、その蓄積を世界的研究の中に統合する事が本研究の最終目標であった。

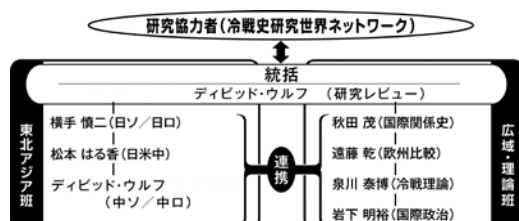
主たる目的は、第1に冷戦期の日本を軸とした北東アジア地域の研究を日本のみならず露・中・米・韓の新資料の発掘を通じて推進する事、第2に日本の冷戦史研究を研究代表者が行ってきた中ソ外交史研究と相互作用させる事、第3にそれを北東アジア冷戦史として総合し欧米の国際共同研究の中で位置づける事であった。

本研究は、国際的な冷戦史研究のネットワークを通じてのみ入手しうる情報を日本の研究と接合する事で、旧来、北東アジア冷戦の中で明らかにされなかった側面に焦点をあて、その実像を追う事が出来る。翻って本研究は、米国のみならず露・中・韓・印など諸国の資料を収集し、その実像を立体的に検証し、欧州冷戦史や世界史の枠組の中で位置づける事で北東アジア冷戦史に固有な特徴を析出しようとする野心的な試みであった。

3. 研究の方法

メンバーを北東アジア班と広域・比較班に分け、各テーマに沿って役割分担をし、研究を行った。両班は相互に深い連携をもって運用され、両班とも代表者が統括を行った。

(下図参照)



歴史家と政治学者は相互に補い合い、歴史家は政治学者の資料収集を助け、政治学者は歴史家のより分析的な政策方針を後押しした。また、近年の未公開文書の開示は我々の研究内容に新しい展望を与え、その結果、メンバーが参加した国内外のカンファレンスでは、常に最先端な発見をもたらすことができた。

資料収集と国際的なパートナーとのネットワーク構築に加えて、中曽根康弘元首相の対露政策に関わるインタビューを含め、いくつかのオーラルヒストリーを行った。また、日本国際政治学会でのパネル発表のため、ハーバード大学の権威であるエズラ・ヴォーゲル教授を日本に招へいした。彼の報告は、日本で評価の高いこの年次大会において最も多くの参加者を集め、パネルは成功を収めた。

4. 研究成果

本研究では、北東アジアの冷戦史に関する新たな知識を発展させるため、現代の歴史家と国際関係の専門家の視点を統合した。中国、ロシア、モンゴル、日本、韓国、台湾の歴史家、アーキビストとの連携により、広範囲にわたる資料を入手し、各国の主要なコレクションを構築することができた。

また、日本で開催したイベントや海外の研究協力者と共同で開催した国際イベントにおいて、北東アジアの歴史と政治、その中で日本の重要な役割について新しい成果を発表し、知識の発展を導いた。

研究メンバーとの連携のもと、ヨーロッパでは、フィンランド・フランス・ドイツ・ハンガリー、アジアでは、中国・インド・台湾、日本とアメリカにおいては複数の地域で主要なイベントを開催した。

二人の研究分担者が、所属や研究の分野（エリア）の変更のために初年度に辞退したが、残りの7人のメンバーによって、80の研究発表（半数が英語による発表）、37の研究論文、33の図書執筆・刊行という成果を出すことが出来た。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 37 件)

- (1) David Wolff, “Japan and Stalin’s Policy toward Northeast Asia after World War II”, *Harvard Journal of Cold War Studies*, 査読有, vol.15, No.2, Spring, 2013 年, pp.5-30
- (2) Shinji Yokote, “Soviet Repatriation Policy, U.S. Occupation Authorities, and Japan’s Entry into the Cold War”, *Harvard Journal of Cold War Studies*, 査読有, vol.15, No.2,

- Spring, 2013年、pp.31-51
- (3) 松本はる香、「2012年の中国——政権移行期の激しい権力闘争と経済成長の失速」、アジア動向年報2012、査読有、2013年、印刷中
 - (4) 松本はる香、「政権移行期における中国の外交——『平和的発展』路線の行方」、習近平政権の課題と展望——調和の次に来るもの、査読有、2013年、印刷中
 - (5) 遠藤乾、「グローバル化2・0—TPP賛否両極論を排す」、中央公論、査読無、128巻、2013年、pp.72-82
 - (6) 岩下明裕・伊藤薫、「中露国境交渉の今：ヘイシャーズ島から考える」、境界研究、査読有、3号、2012年、pp.135-146
 - (7) 岩下明裕、「国境離島の相克：ナショナルリズムの向こう側」、都市問題、査読無、No.8、2012年、pp.75-83
 - (8) Haruka Matsumoto, “The First Taiwan Strait Crisis and China’s ‘Border’ Dispute around Taiwan”, *Eurasia Border Review* “China’s Post Revolutionary Border, 1940s-1960s”, 査読有、vol.3 Special Issue、2012年、pp.77-91
 - (9) 遠藤乾、「ユーロ危機の深層—対岸の火事を超えて」、アステイオン、査読無、76号、2012年、pp.160-182
 - (10) 横手慎二、「岐路に立つ「現代のツアーリ」」、外交、査読無、11巻、2012年、pp.61-64
 - (11) 松本はる香、「海峡兩岸対話の再開と平和協定の将来像」、中国21、査読無、vol.36、2012、pp.35-50
 - (12) Shigeru Akita, “The British Empire and the International Order of Asia in the 1930s and 1950s”, *Yongkuk Yonku (The Korean Journal of British Studies)*, *Yongkukda Hakhoe (The Korean Society of British History)*, 査読有、vol.26、2011年、pp.69-91
 - (13) 秋田茂、「「長期の18世紀」から「東アジアの経済的再興」へ」、待兼山論叢、査読無、45巻、2011年、pp.1-26
 - (14) 遠藤乾、「国境を超える市民／社会？—欧州連合（EU）を事例として—」、法哲学年報、査読無、「市民／社会の役割と国家の責任」特集号、2011年、pp.87-99
 - (15) 岩下明裕、「北方領土「不法占拠」と「固有の領土」の呪縛をどう乗り越えるか」、別冊世界、査読無、816巻、2011年、pp.78-86
 - (16) デイビッド・ウルフ、「スターリン—国境の男」、国際政治、査読有、162号、2010年、pp.24-40
 - (17) David Wolff, “Review: Vesselin Dimitrov, Stalin’s Cold War: Soviet Foreign Policy, Democracy and Communism in Bulgaria, 1941-1948”, *Cold War History*, 査読無、vol.10, No.1、2010年、pp.131-132
 - (18) David Wolff, “Review: Kimie Hara and Geoffrey Jukes, eds., Northern Territories, Asia-Pacific Regional Conflicts, and the Aland Experience: Untying the Kurillian Knot”, *Pacific Affairs*, 査読無、vol.83, No.4、2010年、pp.788-789
 - (19) 横手慎二、「『シベリア抑留』の起源」、法学研究、査読無、第83巻12号、2010年、pp.29-56
 - (20) 横手慎二、「1927年から1929年までの日本におけるI.M.マイスキー」、ルースキー・ズボールニク、査読無、第9号、2010年、pp.234-256
 - (21) 松本はる香、「兩岸関係の進展とECFAをめぐる台湾情勢」、*IDE-JETRO overseas report*、査読無、2010年、(http://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Download/Overseas_report/pdf/1009_matsumoto.pdf)
 - (22) 松本はる香、「台湾における外交史料の公開の現状～外交史を見る視点の多様化の重要性～」、*IDE-JETRO overseas report*、査読無、2010年、(http://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Download/Overseas_report/pdf/1012_matsumoto.pdf)
 - (23) Shigeru Akita, “World history and the Emergence of Global History in Japan”, *Chinese Studies in History*, 査読有、vol.43, No.3、2010年、pp.84-96
 - (24) 遠藤乾、「グローバル化時代の国家回帰」、學士會会報、査読無、887号、2010年、pp.24-29
 - (25) Yasuhiro Izumikawa, “Explaining Japanese Antimilitarism: Normative and Realist Constraints on Japan’s Security Policy”, *International Security*, 査読有、vol.35, No.2、2010年、pp.123-160
 - (26) Akihiro Iwashita, “New Geopolitics and Rediscovery of the U.S.-Japan Alliance: Reshaping “Northeast Asia” beyond the Border”, *The Brookings Institution Center For Northeast Asian Policy Studies*, 査読有、No.29、2010年、(http://www.brookings.edu/~media/Files/rc/papers/2010/09_northeast_asia_iwashita/09_northeast_asia_iwashita.pdf)
 - (27) 岩下明裕、「ボーダースタディーズの胎動」、国際政治、査読有、162巻、2010年、pp.1-8
 - (28) David Wolff, “Stalin’s Cold War: Soviet Foreign Policy, Democracy and Communism in Bulgaria, 1941-48”, *Cold War History*, 査読無、10(1)、2010年、pp.131-132
 - (29) Haruka Matsumoto, “The Taiwan Strait Crisis of 1954-55 and U.S.-R.O.C.

- Relations”、*IDE Discussion Paper*、査読無、No.223、2010年、pp.1-18
- (30) 松本はる香、「中国と台湾の対話再開——海峡兩岸関係の道筋」、*アジア研ワールド・トレンド*、査読有、2月号、2010年、p.33-44
- (31) David Wolff、”Open Jaw: A Harbin-centered View of the Siberian-Manchurian Intervention, 1917-22”、*Russian History*、査読有、36(3)、2009年、pp.339-59
- (32) 横手慎二、「スターリンの日本人送還政策と日本の冷戦への道（3完）」、*法学研究*、査読無、第82巻11号、2009年、pp.1-35
- (33) 横手慎二、「スターリンの日本人送還政策と日本の冷戦への道（2）」、*法学研究*、査読無、第82巻10号、2009年、pp.35-85
- (34) 横手慎二、「スターリンの日本人送還政策と日本の冷戦への道（1）」、*法学研究*、査読無、第82巻9号、2009年、pp.1-56
- (35) 遠藤乾、「冷戦後二〇年—ユートピア殺しを超えて」、*外交フォーラム*（「ベルリンの壁崩壊から20年」特集号）、査読無、2009年、pp.16-23
- (36) Ken Endo、”The Politics of Global Governance: Examining the Formation of International Accounting Standards”、*新世代法政策学研究*、査読無、第2号、2009年、pp.207-231
- (37) 遠藤乾、「帝国を抱きしめて—「ヨーロッパ統合の父」＝ジャン・モネのアメリカン・コネクション」、*思想1020*（「暴力・連帯・国際秩序」特集）、査読無、2009年、pp.152-170

〔学会発表〕（計 80 件）

- (1) David Wolff、”Stalin’s Geopolitics of Revolution: The Role of Peninsulas”、Workshop on “Southeast Asia, Northeast Asia and the Cold War”、2013年3月4日、Thammasat University（タイ）
- (2) Akihiro Iwashita、”Debunking myths about the Japan-Russia territorial dispute”、Northern Territories、2013年2月19日、Finnish Institute of International Affairs、Helsinki（フィンランド）
- (3) Shigeru Akita、”Creatng Global History from Asian Perspectives—From the ‘Long Eighteenth Century’ to ‘Economic Resurgence of East Asia’”、Workshop on Maritime Perspectives in Eurasian and Indian Ocean World History: Towards a Global History、2013年2月17日、Indian Ocean World Centre、McGill University（カナダ）
- (4) David Wolff、”1945: Turning Point?”、Hokkaido Roundtable “Transitions and Turning Points in 20th-century Russo-Japanese Relations: 1917, 1945,

- 1991”、2013年1月29日、Davis Center、Harvard University（USA）
- (5) Shigeru Akita、”Economic Diplomacy of Jawaharlal Nehru Administration after Decolonization of South Asia”、International Workshop on Reconsidering Empires and DEcolonization、The School of International Relations、2012年12月21日、Nanjing University（中国）
- (6) 松本はる香、“Re-examination of the Taiwan Strait Crisis and Sino-American Relations”、北海道大学・台湾国立政治大学国際ワークショップ「冷戦史と台湾」、2012年12月15日、台湾国立政治大学台湾史研究所（台湾）
- (7) 遠藤乾、「EUの規制力—世界標準のポリテイクス」、日本EU学会第33回研究大会共通論題「グローバルアクターとしてのEU」、2012年11月10日、東京大学（東京都）
- (8) Ken Endo、”Changing Contexts of Japan’s Security - In search of new agendas”、Chinese Academy of Social Sciences Workshop、2012年9月13日、Chinese Academy of Social Sciences（中国）
- (9) Yasuhiro Izumikawa、”Japan’s Relative Decline and Its Responses to an Emerging Global Multipolarity”、Norwegian Nobel Institute Annual Seminar、2012年5月3日、Norwegian Nobel Institute（ノルウェー）
- (10) 岩下明裕、“Eurasia Border Dynamics: Lessons from Inland Cooperation for Maritime Dispute Resolution”、防衛研究所シンポジウム「ユーラシアのエネルギー移送と経済的連関」、2012年1月16日、インド防衛研究所（インド）
- (11) 横手慎二、「覇権国家とリベラル・デモクラシー」、上智大学ヨーロッパ研究所など共催シンポジウム「ソ連の崩壊と中東の激動」、2012年1月14日、上智大学（東京都千代田区）

〔図書〕（計 33 件）

- (1) Akihiro Iwashita、Macmillan、Basingstoke、Godfrey Baldacchino (ed.), *The Political Economy of Divided Islands* (“Bolshoi Ussuriiski / Heixiazi”)、2013年、pp.212-227
- (2) 遠藤乾・徐友漁・鈴木賢・石井知章・川島真（共著）、社会評論社、『文化大革命の遺制と闘う—徐友漁と中国のリベラリズム』（第一部コメント2「文化大革命の「二重性」について」）、2013年、pp.56-61
- (3) David Wolff、東京大学出版会、塩川伸明・小松久男・沼野充義 編『ユーラシア世界 5 国家と国際関係』（Ⅲ—9「誰が冷戦の勝者なのか」）、2012年、pp.207-225

- (4) David Wolff、ミネルヴァ書房、松浦正孝編著『アジア主義は何を語るのか』（第24章「スターリンと汎アジア主義」）、2012年、pp.562-583
- (5) 岩下明裕、東京大学出版会、塩川伸明編『ユーラシア世界5：国家と国際関係』（「グローバル・ユーラシア」）、2012年、pp.43-65
- (6) 岩下明裕、岩波書店、孫崎亨編『検証 尖閣問題』（「国境問題を解決する道はどこにあるのか」）、2012年、pp.189-222
- (7) 岩下明裕、東洋書店、堀内賢志、齋藤大輔、濱野剛『ロシア極東ハンドブック』（「北方領土問題」）、2012年、pp.241-248
- (8) 秋田茂、社会科学文献出版社、田中仁・江沛・許育銘（主編）『現代中国変動と東亜新格局』（、「亜州国際経済秩序と大英帝国及英鎊集団（1930-1950年代）」）、2012年、pp.3-12
- (9) 秋田茂、中央公論新社、『イギリス帝国の歴史—アジアから考える』（中公新書2167）、2012年、総頁数288頁
- (10) 泉川泰博、植木（川勝）千可子（編）、勁草書房、『北東アジアの「永い平和」』（第2章 北東アジアの「相対的安定」と極構造）、2012年、pp.15-39
- (11) 泉川泰博、NTT出版、久保文明等編『アジア回帰するアメリカ』（「パワーシフトの国内政治と日中関係」）、2012年、pp.154-174
- (12) 遠藤乾、鈴木一人（共編）、日本経済評論社、『EUの規制力』、2012年、総頁数284頁
- (13) デイビッド・ウルフ（編）、北海道大学スラブ研究センター、比較地域大国論集8『同盟と国境：地域大国を規定するもの』、2012年、pp.1-33
- (14) 岩下明裕（編著）、藤原書店、『日本の「国境問題」：現場から考える』、2012年、総頁数368頁
- (15) Shigeru Akita、Toyin Falola、Emily Brownell et al.（共著）、Carolina Academic Press、Africa, Empire and Globalization—Essays in Honor of A.G. Hopkins、2011年、pp.417-431
- (16) 秋田茂、菅英輝（共著）、凱風社、『東アジアの歴史摩擦と和解可能性—冷戦後の国際秩序と歴史認識をめぐる諸問題』（第12章：南アジアにおける脱植民地化と歴史認識—インドのコモンウェルス残留）、2011年、pp.346-367
- (17) Yasuhiro Izumikawa、Washington, D.C.: Stimson Center, "North Korea Problems in the U.S.-Japan Alliance: A View from Japan," in Yuki Tatsumi, eds., North Korea: Challenges to the U.S.-Japan Alliance, 2011年、pp.26-43
- (18) 岩下明裕、藤原書店、藤原書店編集部編『「沖縄問題」とは何か：「琉球処分」から基地問題まで』、2011年、pp.95-106
- (19) 岩下明裕（編）、Slavic Research Center, Hokkaido University, Comparative Studies on Regional Powers no.6 India-Japan Dialogue Challenge and Potential, 2011年、総頁数42頁
- (20) 遠藤乾、板橋拓己（編）、北海道大学出版会、『複数のヨーロッパ』（ヨーロッパ統合史のフロンティア—EUヒストリオグラフィーの構築に向けて）、2011年、pp.3-41
- (21) 横手慎二、羽場久美子、溝端佐登史（編）、ミネルヴァ書房、『ロシア・拡大EU』（第4章：ロシア政治と対米外交）、2011年、pp.79-95
- (22) 横手慎二、岩波書店、和田春樹編『東アジア近現代通史』、2011年、pp.327-346
- (23) David Wolff、James Hershberg、Sergey Radchenko、Peter Vamos（共著）、Washington, DC, Woodrow Wilson Press, The Interkit Story : A Window into the Final Decades of the Sino-Soviet Relationship (Cold War International History Project Working Paper)、2011年、pp.1-106
- (24) デニス・フリン著、西村雄志・秋田茂（共編訳）、山川出版社、『グローバル化と銀』、2010年、総頁数163頁
- (25) 秋田茂、木畑洋一（共編著）、ミネルヴァ書房、『近代イギリスの歴史—16世紀から現代まで』、2010年、総頁数371頁
- (26) Shigeru Akita and Nicholas J. White (eds.), London and New York: Ashgate, The International Order of Asia in the 1930s and 1950s, 2010年、総頁数308頁
- (27) 遠藤乾（編著）、有斐閣、『グローバル・ガバナンスの歴史と思想』、2010年、pp.1-16, pp.47-80（総頁数328頁）
- (28) 遠藤乾（編著）、五南圖書出版、『歐洲統合史』（国立編譯館主譯、王文萱譯）、2010年、pp.9-13
- (29) 岩下明裕、九州大学出版会、松井康浩編『20世紀ロシア史と日露関係の展望（「4でも0でも、2でもなく」再論）』、2010年、pp.189-214
- (30) デイビッド・ウルフ、岩波書店、和田春樹著『東アジア近現代通史2 ハルビンとダーリニー（大連）の歴史：1898年から1903年まで』、2010年、pp.69-92
- (31) 岩下明裕、藤原書店、藤原書店編集部編『日米安保とは何か』、2010年、pp.149-162
- (32) 岩下明裕（編著）、北海道大学出版会、『日本の国境：いかにこの「呪縛」を解くか』、2009年、総頁数247頁

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

○取得状況（計 0 件）

〔その他〕

ホームページ等

無し

6. 研究組織

(1) 研究代表者

デイビッド ウルフ (DAVID WOLFF)

北海道大学・スラブ研究センター・教授

研究者番号：60435948

(2) 研究分担者

秋田 茂 (AKITA SHIGERU)

大阪大学・文学研究科・教授

研究者番号：10175789

泉川 泰博 (IZUMIKAWA YASUHIRO)

研究者番号：60352449

岩下 明裕 (IWASHITA AKIHIRO)

北海道大学・スラブ研究センター・教授

研究者番号：20243876

遠藤 乾 (ENDO KEN)

北海道大学・大学院公共政策学連携研究部・教授

研究者番号：00281775

松本 はる香 (MATSUMOTO HARUKA)

独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所・地域研究センター・東アジア研究グループ・研究員

研究者番号：90450543

横手 慎二 (YOKOTE SHINJI)

慶應義塾大学・法学部・教授

研究者番号：00220559

(3) 研究協力者

ロバート・エルドリッジ (ROBERT ELDRIDGE)

大阪大学・大学院国際公共政策研究科・准教授 (H21 年当時のもの)

研究者番号：50335329

(H21：研究分担者、H22：研究協力者)

金 成浩 (KIM SUNG-HO)

琉球大学・法文学部・教授

研究者番号：60325826

(H21：研究分担者、H21.9.1 辞退)